

青年農業者の活躍へ向けて

～農業経営体育成セミナーの開催～

1 活動のねらい

千葉地域の新規就農者は他産業からの参入が多く、就農の経緯や年齢等が多様化しています。そこで、就農して間もない青年農業者を対象とした農業経営体育成セミナー（以下セミナー）では、カリキュラムや受講者の交流を深める工夫により新規就農者の確保・定着を図っています。

2 課題の背景

セミナーでは、就農して間もない青年農業者（45歳以下）を対象に、農業経営者として必要な知識の習得を目的として、3年間の研修を実施しています。持続的な農業経営に向けて、土づくりや病害虫防除など基本的な知識の習得に加えて、農作業事故や災害への対処法を学ぶ機会も必要とされています。

3 普及活動の経過・結果

今年度の受講者は30名（基本16名、専門11名、総合3名）で、年齢は20代から40代までと幅広くなっています。

基本研修では、新しい農業及び農家経営に必要な基本的知識・技術の習得、地域社会の一員としての自覚の高揚、仲間意識の醸成を図りました。

専門研修では、専攻する部門についての高度な専門知識・技術の習得、経営管理能力のかん養、仲間意識の高揚を図りました。

総合研修では、専攻する部門についての知識・技術等の応用力、創造力の向上、経営管理能力の向上を図りました。

今年度は、新型コロナウイルスが落ち着いてきたこともあり、研究機関への視察や受講者同士が各経営を訪問し合う相互訪問などを積極的に実施しました。

(1) 合同研修による仲間づくり

セミナーの全課程の受講者を対象とした合同研修として、パイプハウスの建て方研修と農研機構の視察を実施しました。

パイプハウスの建て方研修では、農業用ハウスの構造を学び、パイプハウスを実際に組立てました。また、近年発生が多い台風等の気象災害に対応するための補強技



写真1 パイプハウスの組立て

術を学びました。協力しながらパイプハウスを建てるという共同作業を通して受講者同士の交流を深めることができました。

農研機構では最新の研究成果やスマート農業を学びました。また、農作業事故の防止を目的とした VR 技術を体験しました。さらに、地面の断面をそのまま固定した標本をもとに、千葉県の子壤の分布や特徴について説明を受け、受講者自身のほ場と照らし合わせて調べるなど、子壤に関する意識を高めました。

(2) コース別研修

基本研修では、効果的な病虫害防除につなげるため病虫害の特徴や診断方法を学び、ほ場で早期に対応できる力を養いました。研修では、病虫害防除に関する講義に加え、グループに分かれて発生事例をもとに病虫害の診断をしました。

専門研修では、雪印種苗千葉研究農場で土づくりや病虫害防除等に効果の期待される緑肥の活用技術を学びました。今まで緑肥を使っていなかった受講者にとっては導入を検討する機会となり、現在使用している受講者は活用方法や効果を再確認しました。



写真2 緑肥試験ほ場の視察

総合研修では、目指す経営の実現に向けて、目標の設定と農業経営計画の作成をしました。計画を作成することで家族や従業員と内容を共有でき、また自身の目標を明確にすることができました。

4 今後の課題

受講者が農業経営者として地域に定着するために、セミナーの開催を通して、知識・技術の習得を図るとともに、関係機関や地域の農業者とつながりができるよう支援します。そして、受講者が次代の農業を担う中核的農業経営者となるよう育成していきます。

- 5 担当者 千葉・習志野グループ 木村明花音、鶴岡莉子
市原グループ 田口巧、◎鳥海聖人
八千代グループ 田中稔久、水島莉那

- 6 協力機関 千葉市、習志野市、市原市、八千代市、JA千葉みらい、JA市原市、JA八千代市、千葉県指導農業士会千葉地区会、千葉県農業士協会千葉支部、千葉地域農林業振興普及協議会